

## 大礼委員会（第3回）議事概要

1 日 時：平成30年12月19日（水）15:00～15:32

2 場 所：第一会議室

3 出席者：

（委員長）宮内庁長官

（副委員長）宮内庁次長、侍従長、東宮大夫、式部官長

（委員）審議官、宮務主管、皇室経済主管、侍従次長、東宮侍従長、  
式部副長（儀式）、式部副長（外事）、書陵部長、管理部長

（参事）調査員

4 議事概要

（1）大嘗祭の準備に際しての基本的な考え方

○ 今回の大嘗祭の準備に際しての基本的な考え方について、宮内庁次長から説明。説明の主な内容は次のとおり。

- ・ 大嘗祭については、本年4月3日の閣議口頭了解において、平成度の整理を踏襲し、宮内庁において、遺漏のないように準備を進めることとされている。
- ・ これを受け、宮内庁においては、大嘗祭は皇室の長い伝統を受け継いだ皇位継承に伴う一世に一度の重要な儀式であり、大嘗祭を皇室の伝統を尊重して行うことができるよう準備を進めてきたところ。
- ・ 準備に際しては、平成度の例を参考にしているが、当時からの社会経済情勢の変化等を踏まえ、大嘗祭の意義を損ねない範囲で、見直しを行うことを1年以上にわたって検討してきた。

○ 平成度から現在までの社会経済情勢の変化について、皇室経済主管から説明。説明の主な内容は次のとおり。

- ・ 平成度から現在までの社会経済情勢の変化として、物価の上昇や人件費の上昇、熟練職人の減少などがあり、儀式・行事の挙行の必要経費に大きな影響があることから、各部局に協力をもらいながら、大嘗祭の意義を損ねない範囲で、経費全般の見直しを行った。
- ・ 国民経済全体に関する変化としては、消費税が3%から8%に引き上げられ、さらに来年10月には10%に引き上げられる予定であること、こうした中で、物価も、消費税引き上げの影響を除いても2.3%上昇したことがある。
- ・ 特に、大嘗祭の儀式の挙行経費については、大嘗宮の設営や各種の儀式での天幕の設置や装束・儀式用品の調達のための人件費や物件費が大宗を占めることとなるが、公共工事の労務単価は、約1.3倍から1.8倍、建築資材の価格は約1.2倍、装束や儀式用品の調達経費は約2倍から3倍となるなど、一般的な物価と比較しても極めて大きな上昇が見られる。
- ・ 大嘗祭は一世に一度の皇位継承儀式であり、伝統に則った特別な設備と物品等が必要となるが、製作に携わる熟練職人の減少など、伝統工芸の分野で生産基盤の弱体化が顕著であり、入手が困難になっている。
- ・ このような中、大嘗宮について平成度と同様の規模・設営で機械的に粗い試算をすると、整備費は約70%増の約25億円となるなど、大幅な経費の増加が見込まれる。
- ・ このような状況を踏まえ、各部局には予算案の作成に当たり、大嘗祭の意義を損ねないことを前提としつつも、経費全体にわたって見直しを行っていただいたところ。

## (2) 大嘗宮の儀の準備状況について

- 資料1「今次の大嘗宮の設営方針について」を管理部長から説明。説明の主な内容は次のとおり。

- ・ 大嘗宮は、歴史上様々な規模・形態で推移してきたところ、近代以降、明治の大嘗宮を経て、大正・昭和に定型化され、平成度は、昭和  
大礼の際の大嘗宮に準じて設営されたもの。今次の大嘗宮については、  
基本的には前回の平成度の大嘗宮に準拠した上で、皇族数や参列者数  
に応じた一部施設の規模の変更や儀式の本義に影響のない範囲での工  
法・材料の見直しなどを行い、建設コストの抑制にも留意しながら設  
営を行う。
- ・ 前回、平成度は、昭和度まで萱葺きであった帳殿などを全て板葺き  
へと変更する中で、悠紀殿、主基殿、廻立殿の主要三殿のみを萱葺き  
としたが、今回は、材料調達の困難性や特殊な専門技術者の不足など  
の状況を踏まえ、一定の工期内での大嘗宮の完成という全体工程上の  
要請に、コストの抑制などを併せ総合的に勘案した結果、今回は、主  
要三殿についても、材料調達が容易で工期の短縮が見込める板葺きに  
変更することとした。板葺きとすることにより、自然素材を用いて短  
期間に建設するという大嘗宮の伝統は維持し得るものと考えている。
- ・ 天皇皇后両陛下に供奉される皇族殿下方及び随従の諸員が着床する  
小忌幄舎と殿外小忌幄舎については、今回は、全体として皇族数が減  
少する中、男性皇族が減少する反面、女性皇族は増加することにより、  
各建物に着床する皇族方の数が著しく不均衡となることから、皇族殿  
下方及び随従諸員が円滑に着床・離床を行うために必要な面積を精査  
した上で、余裕空間を整理縮小した結果、小忌幄舎は前回の約 40%、殿  
外小忌幄舎は前回の約 75%の面積規模に調整する。
- ・ 悠紀殿・主基殿が建てられ儀式の主域となる柴垣内については、皇  
族数の減少に応じて、小忌幄舎・殿外小忌幄舎の規模を縮小したほか、  
それに合わせて供奉員が使用する柴垣内の雨儀廊下を整理縮小したこと、  
幄舎と主要三殿との距離を近づけて、参列者が儀式の進行状況を理解  
しやすいよう配慮したこと、また、設営予定地付近の樹木を温存する  
ため、各建屋の間隔を詰めたことなどにより、規模の縮小を図ること  
ができる。
- ・ 組立式建物とは、予め製作しておいた部材を建築現場で組み立てる  
規格建築をいうが、既に前回、平成度において、木造から鉄骨天幕へ  
と変更されている幄舎の例を踏まえ、今回は、伝統構法による大規模

な木造建物である膳屋と齋庫についても、木造から組立式建物へと変更することによって、工程上の負担の軽減を図ることとしたものである。儀式の雰囲気損なうことのないよう、外装を筵張り又は白帆布張りとする。

- ・ 参列者が着席する左右幄舎については、前回、幄舎の端の方の参列者からは儀式の様子を視認することが困難などの問題が指摘されたことから、これらを改善するための参列者数の見直しを踏まえ、幄舎の規模の見直しを図ったもので、前回の 500 席規模から 350 席規模の鉄骨天幕を、左右 2 棟設置することとした。
- ・ 皇族数の減少・参列者数の見直し等に応じ、小忌幄舎・殿外小忌幄舎や幄舎等の規模を見直したほか、幄舎と主要三殿との距離を近づけて、参列者が儀式の進行状況を理解しやすいよう配慮したこと、また、設営予定地付近の樹木を温存するため、各建屋の間隔を詰めたことなどにより、外周垣の規模を縮小している。
- ・ 大嘗宮については、主要三殿をはじめ多くの建物の柱などに皮付き丸太を用いる、いわゆる黒木造りが多用されてきたが、黒木造りには、伝統的な木工技術に長けた職人による大工仕事が必要であり、予め製材加工された材木を使うことに比べ、工程上の負担が大きいことから、熟練技術者の不足が深刻化している現状を踏まえ、今回は、大嘗宮の中核的建物である主要三殿と神門については黒木造りを維持する一方、これら以外の建物の柱については、黒木に換えて一般的な角材を用いることとした。
- ・ また、今回は、大嘗宮が設営される皇居東御苑の休園措置、大嘗祭終了後の解体資材の原則的廃棄など、前回、大嘗祭の設営に伴って取られた措置についても、諸般の情勢の変化を踏まえ、所要の見直しを行うこととする。
- ・ 今次の大嘗宮は、平成度と同様、皇居東御苑の本丸北側の大芝生上に設置する計画であるが、平成度には、当時の厳しい警備情勢等もあり、皇居東御苑のうち、本丸地区は、平成 2 年 7 月初めから同 3 年 3 月末までの 9 か月間閉鎖され、そのうち平成 2 年 7 月末から 12 月末までの 5 か月間は、二の丸地区も含めて全面休園の措置が取られた。今

回は、警備情勢の変化等を踏まえ、大嘗宮の設営に伴い公開を制限するのは本丸地区だけに止め、二の丸地区及び三の丸公開地区については、その間も公開を継続して、儀式当日など特定の日を除き、大嘗宮設営に伴い東御苑が全面休園となる時期をなくすことによって、東御苑利用者等への影響を最小限に止めることとしたい。

- ・ 最近の先例では、大嘗祭で用いられた建物は解体後焼却されていること、長期利用には不向きな資材であることなどから、前回は、一部の資材を除いて、大嘗宮の解体資材の大部分は焼却され、再利用も行われなかったものと考えているが、今回は、資源の有効利用促進など諸情勢の変化に加え、大嘗祭に係る国民の理解の増進を図る上でも、公的機関における公益的用途を中心に、できる限り多くの解体資材の再利用を図ることとしたい。大嘗宮の解体資材には、無乾燥の皮付き丸太などが多く含まれ、住宅建材等としての再利用には不適で用途も限定されることから、公園施設や防災土木などの用途での再利用を図るべく検討を進めている。

○ 資料2「大嘗祭及び即位の礼における装束の再利用等について」を皇室経済主管から説明。説明の主な内容は次のとおり。

- ・ 大嘗祭の儀式に使用する装束については、平成の時に使用した装束について点検した結果を踏まえ、可能なものについて必要な修繕を行い、できるだけ再利用させていただくこととしている。
- ・ 具体的には、親王殿下始め9方におかれては、ご理解を賜り、修繕の上再利用させていただく。また、供奉職員等の装束については、修繕できるものは修繕の上再利用する方針を徹底した。
- ・ この結果、装束全体でみて、人件費や材料費の高騰にもかかわらず、全体の予算額は平成の時をやや下回ることとなり、全て新調した場合に比べ相当の節約が可能となったところ。

○ 資料3「大嘗宮の儀の料理について」を管理部長から説明。説明の主な内容は次のとおり。

- ・ 悠紀殿供饌の儀の後及び主基殿供饌の儀の後提供される賜饌料理については、平成2年の例を参考としつつ、提供する時間帯が深夜にわたること、2回にわたって提供されることに鑑み、参列者へのおもてなしという趣旨を損なわない範囲で、見直しを行いたい。具体的には、献立内容や容器などについて、今後調整を行いたい。

### (3) 大饗の儀の準備状況について

- 資料4「大饗の儀の料理等について」を管理部長から説明。説明の主な内容は以下のとおり。
  - ・ 大饗の儀で提供される参列者向けの饗膳・酒饌について、平成2年の例を参考としつつ、料理の付属品について、儀式の意義を損なわない範囲で見直しを行いたい。具体的には、盛り付けに既存の食器を使うことや、器や折敷の材質の変更などについて、今後調整を行いたい。
- 資料5「儀式用品（下賜用挿華）について」を皇室経済主管から説明。説明の主な内容は次のとおり。
  - ・ 大饗の儀の下賜用挿華については、原材料の銀の価格や職人の人件費の高騰により、仮に平成の時と同じ工法とした場合には、粗い推計で単価は当時の6倍程度に上昇する見込みであったところ。このため、銀製の挿華という伝統を尊重しつつ、製法の見直しを行い、職人による手作業から銀流し込み製法とし、また小型化を図ることで、従来の形状や材質を残しながら、予算的には前回はやや下回ることが可能となる。
- 資料1から資料5までについて了承された。

### (4) 委員長挨拶

- 本日の委員会では、大嘗祭の中心行事である大嘗宮の儀及び大饗の儀について、その意義に則った実施ができるよう準備を進める中で、現代の社会経済情勢に即して見直しを行うべきものについて、大礼委員会として議論し、方針を了承することができたものと考えている。各委員においては、本日の決定内容を踏まえて、引き続き鋭意準備を進めていってほしい。
- 建設や調達といった準備作業には、綿密な調査や、相手方との細かい調整、計画的な作業遂行といった、長い期間にわたっての粘り強い取り組みが必要であり、昨年度からそのような仕事を続けている関係各部署に対しては、改めてその努力を評価し、多としたい。
- 来年はお代替わりの年、いろいろな儀式の行われる年であるので、健康に留意しつつ、気持ちを切り替えて、新しい年を迎えてほしい。

#### (5) 次回日程

- 第4回会議については、調整の上、別途連絡することとされた。

以 上